

激動の中にあつて



総長
ほかま ひろし
外間 寛

めでたく卒業を迎えられた諸君に、心からお慶びを申し上げます。

諸君は、4年間の大学生活で身に付けた学問の力を携えて、ここから出発します。希望の職を得て、これから新しい社会生活が始まります。

いま日本の社会は、政府の「構造改革」の施策が推進される中で、大きな変革の過程にあります。政府の目標は、個人や個々の企業が、政府の干渉を排してそれぞれの創意工夫を自由に発揮し、そしてその成果が正當に報われるような社会を築くことにあります。公共の場でも民間の分野でも、終身雇用と年功序列を前提とする安定した秩序が崩れつつあります。自己責任が厳しく問われるよ

うになります。この傾向は、ますます強まることはあっても、停滞することはないでしょう。この激動の中にあつて、職業人として大きく成長することを願って、私は諸君に次の三つのことを要望したいと思います。ひとつは、自らの仕事の能力を高めるように絶えず努力することです。仕事は、さまざまな知識を要求します。大学で修得した専門知識は、ごく基本的なものにすぎません。学んだことあるいは学ばなかったこと、なんであれ積極的に挑戦して、自分の仕事に精通するように心掛けてほしいと思います。また仕事の上では、意見、認識、訴えなどを書面または口頭で表現することが求められます。同じ

ことを言うにも、ぶっきらぼうな言い方があり、またエレガントなスタイルもあります。仕事の責任が重くなるにつれて、表現が重要な働きをします。受け手に、なるほどと思わせる力のある表現をすることができるよう心掛けましょう。

もうひとつは、協調の精神をもつことです。いまは、どこでも仕事は組織化されています。多くの人びとの協同によつて、仕事が遂行されます。そこでは上司、同僚の間で信頼の関係を築くことが必要とされます。しかしまた、仕事仲間の間では自ずから競争が生じます。組織の中にあつて競争に打ち勝つために、個性を發揮せよ、自己主張をせよという言葉をよく聞きます。これは大切なことだと思いますが、しかしひとりよがりで行けというのとは違うでしょう。どんなに手強いライバルであっても、その人の長所を率直に認めて、そこから学ぶ心掛けをもつことが必要です。他人に学び、他人を尊重するという心が、自分の個性を磨き伸張させることにつながると思っています。

最後に、これはとても難しいこと

ですが、ものごとを正しく判断する能力を身につけるように努めましょう。責任のある立場に立つと、判断に迷うことがらについて判断しなければならぬ事態に直面します。この激動の中で、先例盲従というわけにはいかない場面が多々生ずることでしょう。そして処理しなければならぬことがらが、倫理・道義の問題に関わりをもつことが少なくありません。

日本人の間では、「正しい」という言葉を使うことに躊躇する傾向があります。もしかしてわれわれの間では、「正しき」に欠けるところがあつても、仲間うちに融和をもちたらし、そして融和を保つ決定が好まれるのかもしれない。しかし責任のある立場に立つての判断・決定は、当然周囲に大きな影響を与えます。自分の判断について責任を自覚するためにも、また他人に理解してもらうためにも、「正しい」とはどういうことか、日ごろ考えを深める訓練をつむことが大切なことだと思えます。

ご健闘を祈ります。